へ遠13
1876

へ遠18
門
1876
巻

蘆名辻蹇兒仇討

六冊合巻

仙鶴堂梓

あるまじと同せそ
さいまた抜萃

背の草冊子ハ臭く今ハ草冊子ハ臭かゞ壁ハ人の屁ハ臭く
ゴボ屁ハ人ちくぶるゞ如く吁その振向も臭ふ洋くまで似くりゆ
似くり。ゆきゆくとあるもつくゞ夜ふ舉月下旬を打ぶち河豚
我物語ゆく祇ども。十にハ九ハ復讐三味よりや豫讓が桜と辟き我
三文の智囊絞つて出ても縫廣げても到底ハ知れぬことゝを
一番抜萃ハ振向ハゆゆ敵討あるまじと見せて珍の是ハ稀多優
墨華ハ花の兄樹ハ身を接木ゆくる即帶莖を作者し筥と箱根の
靈驗せろ必時の神ゆゑ出て今桑も都ゞ評判を行ゆまゆくせ仕ものく

曲亭馬琴識

蘆名辻の妻
八重垣
有宅
我布
南
宇信
保
乃波奈
母鳥
良能
半流
楠奥方
木石
元晴
飯沼勢兵衛
忠正
一郎
楠

蘆名
辻林彌
飯沼補二郎
痛いとかこれまた
補二郎頭ふくりより異
病の妻鷹。餅よ富士
片羽鳥。音ふ鳴きまくは正是。
池よ月
あらせ鏡や
みぐさり
林彌が姉
村咲
逸坂訥平
惜むべし
保太郎の
絶ぬ
難ふ
身を
西眼
聾る難
沿の舟妻
さはよ
まくは正是
草に落く
蛍の名
保太郎が妻
夏草
保太郎
飯沼

赤松が家臣
大社小二兵衛
赤松教祐
一子
強丸
鉄辟
道人
播磨
白波多

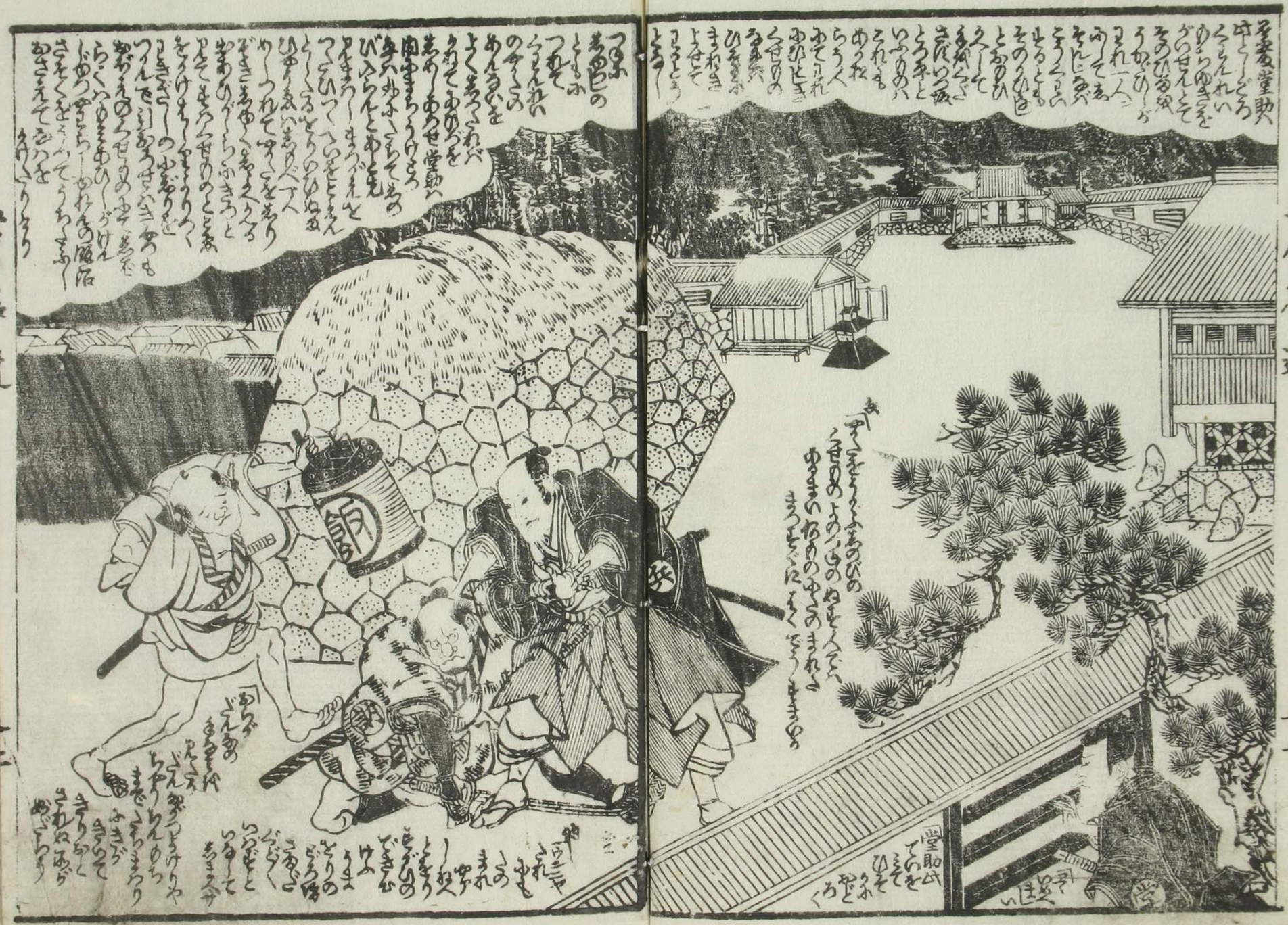
落城の事
赤松が家臣
岩箕太郎
後名を葉藤堂助
又谷川志田之介とあらそふ

「ゆげあ
「うち
世を
堂

居場
十有八変

きんのつぎき

三
堂
訥
補



馬琴作

新霞楼国丸画

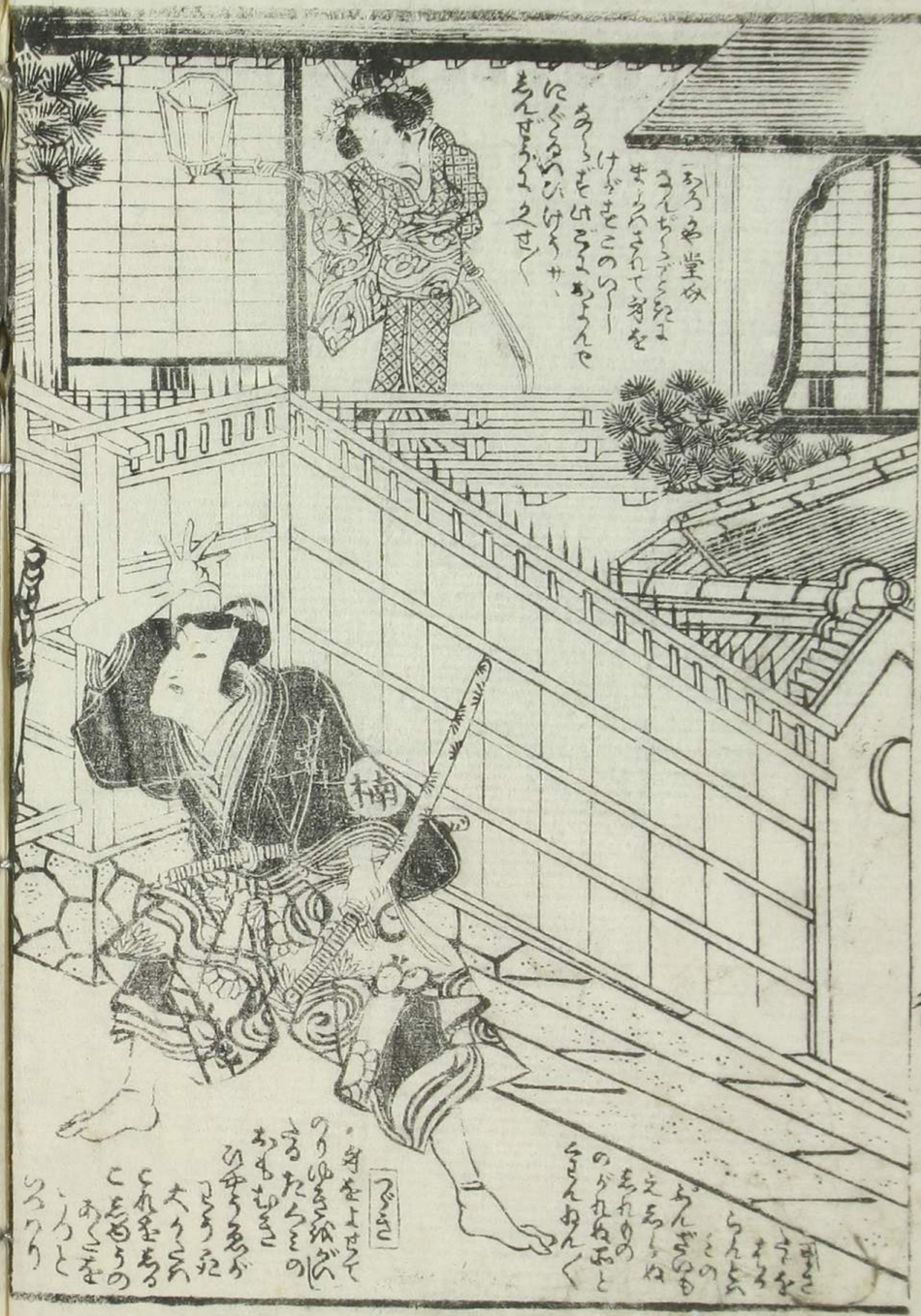
○馬琴
画さん扇
江戸神田多町
りーいや半彩
大坂心斎橋筋
かるの町
かちや太助
方あり

前編三冊通計十五丁
筆者 藍庭晋米

つゞき このいゝのがくされゝあるさうぞく、などゝくよと
ちそうりはさらけびてあひいでおすまわらし このぬ
まんぜいの男女ハいまよくわらりてこれぞちらりて
さて さむらひはふしろがたる堂奴ハさきおろて
うそとそれおきさらんでいでにげいづるぬ さとへの
むらのよ ちにて引さらく よるまずりやりまずり
まむらく人のをわびいーがつのよくせめのをらに
とおてやにきらまそのら紙うけくさりなりこのいゝ
くらハまんざんの堂奴がひかりいちのをさもさうを
てくさしらは甘らびゝいのりておつとのうへあも
まちのうらはつぎのの日ゆきさたにやよしのより
まんくらぜんのあもむぞきぞきてたさまおろどもに
やがてぬもと人をいでそうりんもちらはさうしくとどび
さのでもをのさしらうちあのかべこの中をふらびを
さらはさせこれより堂奴をおのくもちひて
いさくらもらくたろを おもうぞとまづうろろは堂奴へさらきざ
うるよそだめておイドのおくがさとのいゝをうんて
せめてトよあさそひねせばいちごのかわんのうる
らくちまよのひ提のハ又うろびじんもあるのみ
うへをーいりよゆーてまはいゝれんとひとりちて
ろをらふーめーがかれいあのはちふ武士のつまえ
おちらさてよくびくをきおのがらくつてけなふたき
きぞぞ紙おとわん前らひおかわ くーぎさかの
わりてさのおくがさのね心やるはまのびのりにうるの
あのひをさけんめのをとて中くもゐーぞろの
きさらんをおヨまされわもうさもとうきまうら
ねどもはおゝ日らきとのそこハよーのよりらずとふ
いでらきくまつへしとてらそでぶゞくーくさんざい
すへーうがとよひへ又るべくもあらぞとこれさい
わひとなそうまよろこびそのくよふけてらさのた

がたち久またるてのふのてにもの志のびのがをん
わりてこのりのさのねやよのさまみさへしうちれ
おくうさされどとも堂奴がよくぶあくはらに
されつがらてらし君ひざくてさこーも こさむ
けーさうく生らくさを うへすーこゝそむざんうれ
か、おまくすもあさいりでもおへてしく紙むぞ
でらしてりとまら年りまつさくらへおうのらひ
づけあくあ門の一こゝ三宮ふて不成のこゝをちを
ようら、まとそるどきさいりのこゝでこうなも
わやの戸をけてすくて内へいるべき紀あそたを
堂奴ハ大きらはおどうかに身をらくさんとてちた
りんをとおくあるはりんをむさくともちさまよくまを
まよひてはたちまちはおちらやぶれてこれかに

せんくさおーどてものがれぬところ 未りすかりくなひをそげ うるをんまらうじおひて おに
おぶやさびんへのそりおーいでをきかげまさーとにしまさ たぐてそをおわっせんとその
いゝをとりてつきふさかそびふろとくれきりてちがさす しろもたさげてまたら
け中おりかけのかれへおりて ぞむ含そのゑへ合とそはげちーしておうぞう
もしぼやん堂奴あんぢがこらひまくらをくへー今すきさびをうききろうるその
こいがつまこのいーうへあらざるおりとちぬとまよう、おイぢがよ
さとりじ中系こーめとくろ田というのをこのいーすいでしくてそれと志りつ
させーハまんちが志あらをゆおらんからのえさうにこれ志のびてるや
きまおのそらんかんぞう中てきやうりんをぬさそとりぶろいおとび
らせかのおとくはかさせーうきがつはけかりまとちろるのん一かとすんちが
あるどきらよふらて仏をつくろはそのち名くれくろんるおもうけ
よふっくれたるをゆるてろうゆるぞぞよらべへふどおくりてす
ぬどんとれんせーんいらくてより こちかりやるくはてちんぢのなぞわち
のおもちをえうるよるてか の心くつろへーかれ
めりてうんぢがをぞひそやしちまやのさせしまりしうへ
あら松せんゆらふつうえる岩ひらんそらとり ふのの


つぐさ

神

垣

人面川
補

堂
皆
恩
保
補

保
神
谷川志田の

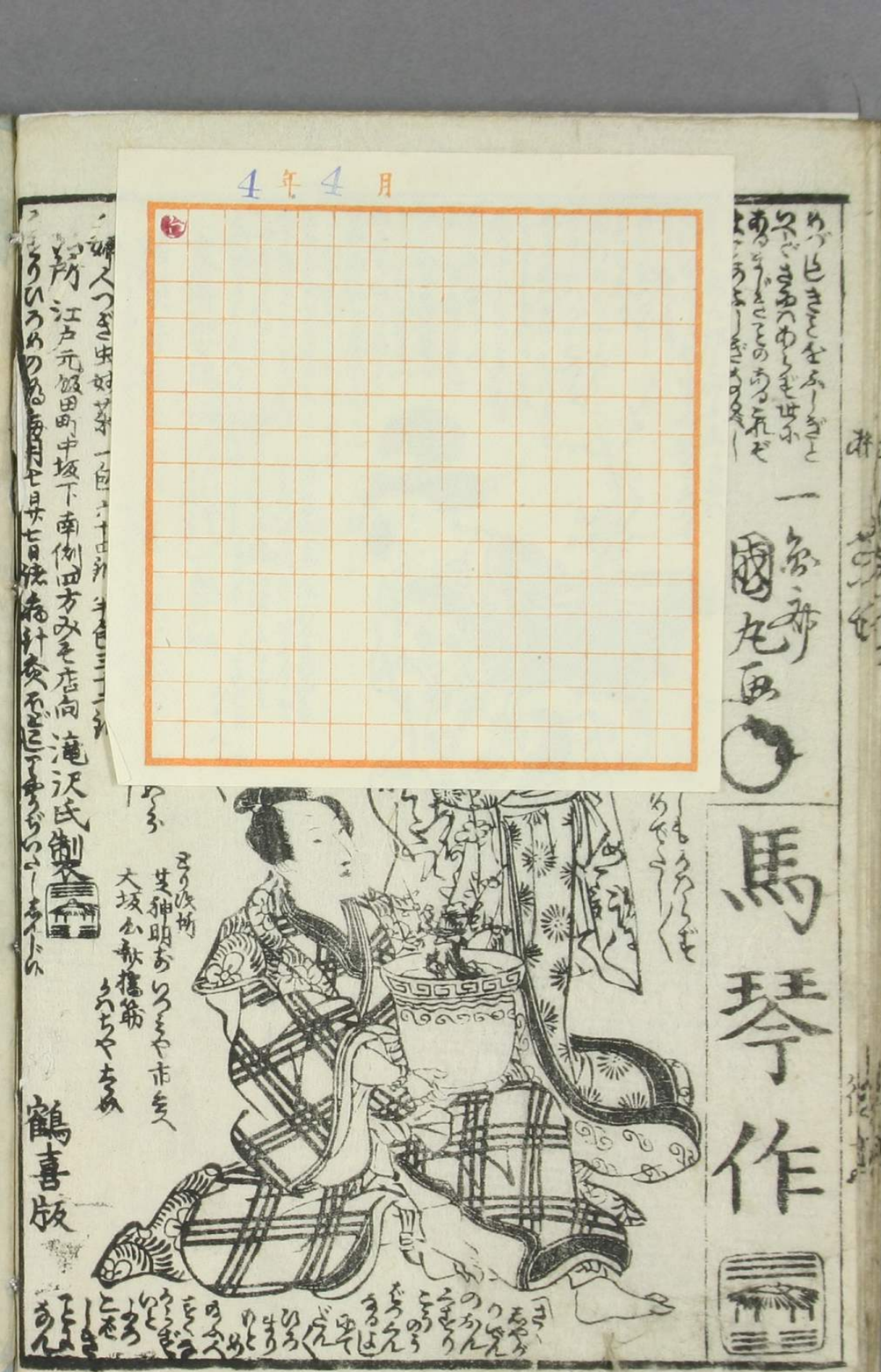
堂
保

里見八犬伝

右のようなかたちねんを
初へんより
おひく少
板さうゐ
このひ
がつそんと
もつたふ
りゆり
くも
ゆうゆ
ぜんぜ
ゑ上ひん

恩
保
神
村
村
神

持
芽
村


一名、琴
馬琴作
鶴喜版
江戸元飯田町中坂下南側四方みそ店尚滝沢氏御

一名 琴
馬琴作
家傳神效湯
精製奇効丸
鶴喜版